

違いは弱さじゃない

(学校名・学年・氏名非公表希望)

休み時間、クラスの友達が「変わってる」と言われて笑われていたことがある。その子は授業中に思ったことをすぐに口に出したり興味を持ったことを熱心に話したりするタイプで、周りからは、空気が読めないと見られていた。私もその場に居たが、何も言えずに笑い声にまぎれてしまった。けれど心の中では、「本当におかしいのは、その子ではなく笑っている自分達の方じゃないか」と思っていた。あの時の気持ちは今でも忘れられない。

この出来事は、私に「違う」ということの意味を考えさせた。人はみんな同じである方が安心する。多数派にいと自分が守られているように感じるからだ。だから、少しでも他と違う行動や考え方をすると「弱い」とか「変だ」と感じてしまうのかもしれない。しかし、それは本当に正しい見方なのだろうか。

私はあるとき、美術の時間にその子が絵を描いている姿を見た。色使いは鮮やかで、構図も独創的で、見ただけでワクワクするような作品だった。クラスの誰も思いつかないような表現を生み出す力を、その子は持っていたのだ。その姿を見た時、私は「違いは弱さじゃない。むしろその人だけが持つ強さなんだ」と強く思った。

考えてみれば、私自身もみんなと違うと感じて不安になったことがある。人前で話すのが苦手で、発表のときに声が震えてしまう。そんな自分を恥ずかしく思ったが、ある友達は「緊張してても一生懸命さが伝わってよかったよ」と言ってくれた。その言葉に救われた。私が「弱さ」だと思っていた部分も、人から見れば「誠実さ」や「真剣さ」に見えるのだと知った。違いは必ずしも欠点ではなく、その人の魅力に変わることもある。

さらに私は、部活動での経験からも「違い」の大切さを感じている。私はテニス部に所属していた。部員の中には足の速い人もいれば、ラリーの粘り強さで勝負する人、頭脳的な戦術で相手を崩す人などさまざまなタイプがいる。一人ひとりのプレースタイルは違うが、それぞれが持つ強みがチーム全体を支えているのだ。もし全員が同じようなタイプだったら、きっと私達の部は今のよう試合で結果を残せていないだろう。違いがあるからこそ、補い合い、支え合うことができる。

世界を見ても同じことが言える。国や文化、宗教、考え方の違いがあるからこそ、互いに学び合い、新しい発見や進歩が生まれてきた。もし世界中の人が同じ価値観しか持たなかったら、科学も芸術も発展せず、今の豊かな社会は存在しなかっただろう。人の違いは社会を前に進める原動力だ。

私はある日、笑われていた友達をかばうことができなかった自分を今でも後悔している。もしまた同じような場面に出会ったら、次は勇気を出してその子のいいところを伝えたい。そして、自分自身もまた人と違っていいのだと胸を張りたいと思う。

「違いは弱さじゃない。」この言葉は、私がこれから生きていくうえで忘れたくない大切な教えだ。人は一人ひとり異なるからこそ価値がある。そのことを心に刻み、誰もが自分ら

しく輝ける社会をつくるために、まずは身近な場所で小さな一歩を踏み出していきたい。